

2. 本書の位置づけ・目的

岐阜県は豊かな森林資源（木材）を保有しており、県内の森林面積は866千ha（全国第5位）で、森林率（県土面積に占める森林割合）は82%（全国第2位）、岐阜県の森林蓄積は年々増加しており、152,759千 m^3 （国有林含む、うち民有林蓄積は、127,789千 m^3 ）となっており、人工林蓄積が著しく増加しています。主要な材種であるスギ、ヒノキにおいては、既往のデータより、曲げ強度は、スギ、ヒノキとも、構造計算で一般的に用いられる告示で定める強度より高い値を示しています。加えて、梁断面を算定する上で最も重要である木材のたわみにくさ（ヤング係数）は、たわみ易く使いにくいとされているスギにおいて、告示で定めるヤング係数よりも高い値を示し、スギのヤング係数E 70以上のものが9割以上を占める結果も得ています。また、大規模木造公共施設においては、製材だけでなく集成材の利用が想定されますが、この集成材を構成するラミナについても、スギ、ヒノキ、カラマツとも、良好な結果を得ており、岐阜県産材が非常に良質であることが言えます。この良質な材料を有効に利用することが本書の目的です。

この良質な材料の需要拡大における県内外における公共建築物への岐阜県産材利用の推進には、コストは重要な要素であり、低コスト化は必須です。木造公共施設の低コスト化を考えた場合、ヒアリング調査からも伺えるように、最も重要なことは、木造の特徴を知り、その特徴にあった設計・施工を行うことです。

本書は、木材料・設計・施工、それぞれについて、コストに主眼をおき、製材・加工・設計・施工関係者へのヒアリング調査、物件調査、および、関係資料を参考にまとめたものです。無駄のない建築物を建築する（＝低コストに繋がる）ためのマニュアルと位置づけ、木造を想定されていない設計者においては木造での設計への足がかりに、木造を検討されている設計者においては、マニュアルでありチェックポイントの把握に、木造で設計をされている設計者の方々には、実務マニュアルとして活用ください。

また、発注者の方々においては、本書を一読頂くなかで、木造の良さを実感し、発注物件の木造化の価値や、木造での実現の可能性が技術的にも十分あることを理解頂き、また、木造の長所・短所をふまえ、要求性能とコストに見合った木造建築物の発注につなげていくものとして活用ください。

本書の留意事項

- 本書は、県内外の公共物件の木造化、および県内産材の利用を促すツールとして、製材・加工・設計・施工関係者へのヒアリング調査、物件調査、および、関係資料を参考にまとめたものであり時間的な制約により暫定的な内容となっておりますので、今後の改良等も想定しています。
- 本書は、個々に応じて一定の仮定条件を設けることにより、単純化、わかりやすく示したものであるため、実際の物件においては、個々の諸条件に合わせた検討および、法律・法令等の確認も必要となります。